

令和 5 年度稲美町教育振興基本計画
点検評価委員会資料
(令和 4 年度事務事業分)

評価調書

目 次

令和4年度分 稲美町教育振興基本計画点検評価事業名一覧

I-1-(2)	新しい時代に求められる資質・能力の育成(全国学力・学習状況調査の実施・分析・活用)	・・・ 1
I-1-(3)	さまざまな形態による学習の推進	・・・ 2
I-2-(1)	道徳教育の推進(考え議論する道徳の推進)	・・・ 3
I-2-(2)	体験活動の推進(小中学校における体験活動の推進)	・・・ 4
I-2-(3)	心の教育の充実	・・・ 5
I-2-(5)	読書活動の推進(学校図書館の整備充実)	・・・ 6
I-3-(1)	体力運動能力向上の取組	・・・ 7
I-3-(2)	食育の推進・充実(地産池消の推進)	・・・ 8
I-4-(1)	キャリア教育の推進	・・・ 9
I-4-(2)	幼小中一貫した国際理解教育の推進	・・・ 10
I-4-(3)	情報教育の推進	・・・ 11
II-3-(1)	学校施設の改善と充実(大規模改造工事)	・・・ 12
II-3-(2)	安全教育と防災教育の充実	・・・ 13
II-3-(3)	児童生徒の安全対策の推進(登下校の安全)	・・・ 14
II-4-(1)	特別支援教育の充実	・・・ 15
II-5-(2)	子育ての支援(預かり保育の推進)	・・・ 16
III-1-(2)	教育環境の整備(学校協働ボランティア活動)	・・・ 17
III-1-(5)	地域学校協働活動「いなみいきいき共有ネット」の充実(地域学校協働活動等)	・・・ 18
III-2-(1)	コミュニティ・スクールの推進	・・・ 19
III-3-(1)	放課後子どもプランの推進(放課後児童クラブ事業)	・・・ 20
III-3-(3)	家庭教育の推進(家庭教育学級・異世代交流いなみネット事業)	・・・ 21
IV-1-(4)	ライフステージに応じた学びの充実(高齢者の学びの機会と充実)	・・・ 22
IV-2-(1)	地域における身近なスポーツ環境の整備(スポーツクラブ21の充実)	・・・ 23
IV-2-(1)	地域における身近なスポーツ環境の整備(いなみ新春万葉マラソン大会事業)	・・・ 24
IV-3-(1)	公民館活動の推進(公民館事業の充実)	・・・ 25
IV-3-(2)	図書館運営の充実(電子図書館サービス事業)	・・・ 26
IV-3-(2)	図書館運営の充実(図書館学校連携事業)	・・・ 27
IV-3-(3)	芸術・文化活動の推進(文化会館事業)	・・・ 28
IV-3-(4)	歴史文化活動の推進(稲美町史編さん事業)	・・・ 29
IV-4-(1)	住民が主体となって参画・協働する仕組みづくりの推進(校区まちづくり事業)	・・・ 30
IV-4-(2)	社会教育施設等の活用と促進(いなみ野水辺の里公園)《指定管理事業》	・・・ 31
IV-5-(1)	各自治会の課題に応じた学習会の実施(ふれあい学習会の充実)	・・・ 32
IV-5-(2)	住民が関心のある人権課題の講座の実施(ほっとホットセミナー)	・・・ 33
IV-5-(4)	男女共同参画社会の推進	・・・ 34
V-1-(1)	教育振興基本計画の見直しと点検評価	・・・ 35

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-1 確かな学力の定着		
重点事項	(2) 新しい時代に求められる資質・能力の育成 (全国学力・学習状況調査の実施・分析・活用)		
目的	児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実と改善に役立てる。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は全国学力・学習状況調査を悉皆調査として実施する。 ・児童生徒の学習状況を把握・分析し、教育指導の充実と改善に役立てる。 ・生活と学力の関係をクロス集計し、より効果的な指導方法について研究を行う。 		
根拠法令等	全国学力・学習状況調査に関する実施要項	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	授業の内容はよくわかりますか(%) (全国学力・学習状況調査)	小学校国語	85.6	未実施	85.0	82.4
		小学校算数	83.4		90.0	82.5
		中学校国語	82.3		84.7	76.1
		中学校数学	74.1		75.8	76.5
コスト	予算額(千円)	国費	未実施	国費	国費	国費
	決算額(千円)	—	—	—	—	—

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。 	
1	A 期待通り	評価に対する説明等
	B 概ね期待通り	
	C 課題あり	
	D 事業見直し等	
学力の向上を図るために、学力の状況として各分野の理解度を把握し、その結果をもとに指導方法の改善を図っていくことが必要である。		
2	効率性	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。 	
	評価に対する説明等	
	全国学力・学習状況調査の結果として「学習成果と課題」、「学校・家庭のようす」、「生活と学力の関係」について表やグラフを用いて把握・分析を行った。各校の分析結果は、学校だより等と各校のWebページで公表し、町全体の分析は、稲美町Webページと町教委からの保護者向けプリントで公表した。	
3	有効性	B
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。 	
	評価に対する説明等	
	適切な現状把握により、学校においても授業改善と効果的な学習指導を進めるための資料となっている。学校の序列化や過度な競争にならないよう、結果の公表においては数値を使用していない。また、国より令和4年度全国学力・学習状況調査の「解説資料」と「調査問題活用の参考資料」(中学校は国語・数学・理科、小学校は国語・算数・理科)が各小中学校に送付された。それらの資料を活用して、各校において授業改善と効果的な学習指導について研究できた。	
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A: 十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B: できている <input type="checkbox"/> C: あまりできていない <input type="checkbox"/> D: できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題今後の対応等	平成25年度から悉皆調査となったため、稲美町の児童生徒の学習実態を正確に把握し、授業改善や教育課程の編成に反映させることができている。そして、調査を継続することで児童生徒の課題の現状やその移り変わりを把握できる。また、生活と学力の関係をクロス集計することで相関関係を明らかにし、主体的・対話的で深い学びのさらなる充実の視点からの授業改善により効果的に取り組んでいく。
外部評価	調査の結果は、個々の児童生徒についての指導とともに、各学年の経年比較における指導のあり方の貴重な指標となる。検証に基づく継続的な指導に努めていただきたい。評価のめやすについて、主観的評価から客観的評価への変更を検討していただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-1 確かな学力の定着		
重点事項	(3) さまざまな形態による学習の推進		
目的	小学校の理科授業に「観察実験アシスタント」を活用し、観察・実験活動等における教員の支援を行うことにより、授業内容の充実・活性化と指導力の向上を図る。		
具体的取組	理科だいすき推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・学生、退職教員、企業技術者、地域人材等の外部人材を、観察実験アシスタントとして小学校に配置する。 ・教員が作成した指導計画のもと、小学校中学年及び高学年の理科授業を支援する。 ・観察実験アシスタントの賃金及び消耗品等の予算執行事務を行う。 		
根拠法令等	<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育設備費等補助金交付要綱 ・理科観察実験支援事業実施要領 	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	授業時数(時間)	405	405	405	405	
	活動時間数(時間)	315	315	315	315	
	実験実技研修評価(良好の割合)	13/14	13/13	13/13	32/32	
コスト	予算額(千円)	323	323	323	323	323
	決算額(千円)	323	323	323	323	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 3～6年生に担当されている授業時数のうち、主に観察・実験を伴う授業について、観察実験アシスタントが支援することにより、児童への安全面への配慮を充実させる必要がある。また、基礎知識の習得だけでなく、論理的思考力の向上に重点を置いて教員が指導にあたる環境を整えることができている。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 観察・実験の授業を、観察実験アシスタントとともに行うことにより、児童への多面的な指導・支援ができると同時に、安全面への確実な配慮が可能となっている。また、授業の準備や教室環境を充実させることができている。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 観察・実験を伴う授業においては、学級全体への指導と個々への対応がより必要となってくるため、観察実験アシスタントの支援により、きめ細かな指導が可能となり、論理的思考力の向上に重点を置いた授業を展開することができた。また、天満南小学校が拠点となって「サイエンス・トライやる事業」を活用した研修会を実施し、町小学校教員の指導力を高める機会を創出できた。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	観察・実験においては、授業前後の準備・片付けなど多大な時間を必要とし、また特に実験においては危険性も伴う場面も多く、観察実験アシスタントの役割は大きい。教員定数の関係で、理科の授業を行う教員の負担増が懸念される小学校への配置を検討する。
外部評価	外部人材である観察実験アシスタントの配置は、授業環境の安全確保、児童生徒への多面的な支援ができるだけでなく、教員の負担軽減など多くの成果が期待できるため、引き続き内容の充実を図っていただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-2 豊かな心の育み		
重点事項	(1) 道徳教育の推進（考え議論する道徳の推進）		
目的	人間が本来持っているよりよく生きたいという願いや、よりよい生き方を求め実践する人間の育成をめざし、その基盤となる道徳性を養うことを目的とする。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教科化された「特別の教科 道徳」を基盤とし、教育活動全体で行う道徳教育を通して、児童生徒の心の教育に取り組む。 ・地域との連携も含めた年間指導計画のもと、兵庫版道徳教育副読本や小学校道徳副読本、「私たちの道徳」を活用し、自分との関わりにおいて道徳的価値を理解し、深めていけるような心に響く魅力的な授業を実践し、積極的に道徳の授業を公開する。 		
根拠法令等	小学校学習指導要領、中学校学習指導要領	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	①自分には良いところがあると思うか	82.7	未実施	83.4	78.5	
	②人の役に立つ人間になりたいと思うか	96.1		96.2	94.4	
	③自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか。(%) (全国学力・学習状況調査)	76.5		81.4	70.9	
コスト	予算額(千円)	0	0	0	0	0
	決算額(千円)	0	0	0	0	0

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 社会全体のモラルの低下や、家庭や地域社会の教育機能の低下、社会体験や自然体験の不足、新型コロナウイルス感染症による生活の変化によるストレスなど、学校における道徳教育の担う役割は重要である。
	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 授業構想や評価のあり方等、教職員研修を充実すべく準備を進めた。しかし、令和4年度もコロナ禍により集合研修会を行うことはできなかったが、オンライン研修や動画視聴、人数を制限する等、研修方法を工夫することで町全体として取り組むことができた。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 授業参観やオープンスクールなどの機会を捉え、道徳の授業を公開したり、兵庫版道徳教育副読本「私たちの道徳」を家庭でも活用したりし、家庭や地域の人々の理解と協力を得よう努めた。また、校外の研修会への参加、校内の研究授業に取り組むなど、「考え、議論する道徳」の深まりを図った。
	判定	<input type="checkbox"/> A：十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
総合評価	判定理由、課題今後の対応等	教員が道徳教育の重要性についての意識を更に高め、対話や討論など言語活動を重視した指導や問題解決的な学習など多様で効果的な道徳教育の指導方法の検討や評価のあり方等にも継続して取り組んでいる。その結果、内容を理解する道徳から、考え議論する道徳への変容が見られる。今後もこの取組を継続していくことにより、自尊心、情報モラル、思いやりの心、自立心、自律性、ルールやきまりを主体的に遵守する心や態度を育てる。
外部評価		「特別の教科 道徳」の実施にあたっては、コロナ禍の中でもオンライン研修や動画配信など、工夫して開催できたことは評価できる。また、「評価のめやす」について、令和3年度から変更され判定しやすい指標となっている。

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-2 豊かな心の育み		
重点事項	(2) 体験活動の推進（小中学校における体験活動の推進）		
目的	自然や社会、芸術文化に触れる体験や学校家庭地域の連携により地域や自然の中で主体性を尊重した体験をとおして、子ども一人一人が豊かな人間性と社会性を育む。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・環境体験事業(小学校3年生) ・自然学校推進事業(小学校5年生) ・青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～(中学校1年生) ・地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」(中学校2年生) 		
根拠法令等	環境体験事業実施要項 自然学校推進事業実施要項 青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ～実施要項 地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施要項 地域に活かす「トライやる」アクション実施要項	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	体験活動児童の充実度	A	A	A	A	
	トライやる・ウィーク生徒の充実度(%)	97	94	91	86	
コスト	予算額(千円)	8,379	8,096	8,244	8,220	7,856
	決算額(千円)	8,217	6,898	8,077	8,050	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、小中学校どちらの体験活動も令和2年度、令和3年度は、実施時期や内容の変更、期間の短縮等を図ってきた。令和4年度は期間の短縮はせず、感染対策を講じて活動を実施した。児童生徒はそれぞれの活動の目的を理解し、ねらいに見合った成果を得ることができた。コロナ禍にもかかわらず、地域からの応援・協力を得て実施できたことは非常に有難く、地域や保護者からも概ね高評価を得ることができた。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 自然学校については、全校4泊5日で実施することができた。感染対策を講じた活動となるよう各校工夫を凝らし貴重な体験活動を行うことができた。トライやる・ウィークについては、5日間の実施ができた。活動の範囲が限られた面もあったが、教育機関の協力と新規の事業所登録の申し出を得たり、コミュニティ・スクールとして地域の方々の協力を得たりすることで活動の広がりを感じることができた。また、トライやるアクションも実施した。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 小学校の体験活動では、自然を大切に心や家族への感謝の気持ち、仲間と協力することの大切さを実感することができ、保護者や教員が体験後の児童の成長を実感したとの声を聞く。また、中学校の体験活動では、キャリア教育の視点からの学びも多く、地域の方々への感謝の気持ちやふるさと意識の醸成させるねらいも十分に達成できている。
総合評価	判定	■A：十分にできている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	児童生徒に「生きる力」を育むために、主体性を尊重して地域や自然の中で行う体験活動は非常に重要である。児童生徒の中でも活動は定着しており、地域からの協力体制も確立できている。新型コロナウイルス感染症の心配は消えることはないが、感染対策と方法や内容を工夫することで体験活動を推進していく。
外部評価	コロナ禍にもかかわらず、様々な工夫を凝らし、縮小や中止することなく、通常開催ができたことは高く評価できる。また、このような状況の中でも「トライやる・ウィーク」の新規事業所登録など、地域の支援を得られたことはありがたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-2 豊かな心の育み		
重点事項	(3) 心の教育の充実		
目的	都市化や少子化、核家族化などにより、地域における連帯感が希薄化する中で、子どもたちの自尊感情を高め、人間関係を築く力や社会性を育成する。また、児童生徒指導員を配置することにより、問題行動の未然防止、早期発見、早期対応を図る。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を育むための小中連携推進委員会や小中学校生徒指導担当者会において不登校の事例研究を行い、児童生徒理解に基づく生徒指導及び各校内の教育相談体制の充実を図る。 ・心の健康サポート委員会と連携し、不登校等様々な問題の解決に向け指導の充実に努める。 ・児童生徒指導員は教育委員会が任用し、学校長の生徒指導方針等に沿って、教員と協力して問題行動を繰り返す児童生徒への関わりを主な職務としている。 		
根拠法令等	稲美町いじめ防止基本方針、心の健康サポート委員会設置要綱	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	いじめ発生率(%)	県小	5.70	5.36	7.53	8.38
		中	4.40	3.32	3.84	4.28
	不登校児童生徒の出現率(%)	町小	2.27	0.47	0.60	1.15
		中	1.77	0.13	1.10	0.85
コスト	予算額(千円)	県小	0.82	1.01	1.32	1.80
		中	4.62	4.91	5.82	7.06
	決算額(千円)	町小	0.41	0.47	0.66	0.79
		中	2.90	2.58	4.53	6.32
		977	977	977	977	1,033
		904	913	914	935	

評価項目	評価	評価の主な観点等	
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
		評価に対する説明等	
2	効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
		評価に対する説明等	
		生きる力を育むための小中連携推進委員会(年2回開催)、心の健康サポート委員会(年2回開催)、小中学校生徒指導担当者会(月1回開催)の研修内容及び、ふれあい教室(適応指導教室)における状況等、各学校の職員会議や校内研修において、全職員で共通理解を図り、生徒指導体制を効率的に運営している。	
		A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	
3	有効性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
		評価に対する説明等	
総合評価	判定	□A:十分にできている ■B:できている □C:あまりできていない □D:できていない	
		□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
		全国的に不登校児童生徒の出現率が増加しており、稲美町でも同様の傾向である。生きる力を育むための小中連携推進委員会を引き続き実施し、小中学校生徒指導担当者会において校種間の連携を図る。今後も「心理テスト(Q-U)」を活用して実態把握に努めるとともに生徒指導担当者会における事例研究を通じて、適切な支援のあり方を検討する。	
		小中学校ともに不登校児童生徒の出現率が増加している。その中で、両中学校に校内適応指導教室を配置したことは評価できる。その他にも、多くの不登校支援が行われており、評価に関する説明に加えていただきたいところである。	
外部評価			

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-2 豊かな心の育み		
重点事項	(5) 読書活動の推進（学校図書館の整備充実）		
目的	子どもたちが読書活動を通して感性を磨き、読解力や表現力を高めることができるよう、学校図書館環境の整備・充実努力とともに、多様な本に触れる機会の提供等、読書習慣の定着と読書意欲の向上を図る。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書（学習タイム）、読書の時間、総合的な学習の時間などを活用し、読書活動を行う。 家庭読書の習慣づくりを進める。 委員会活動を充実させ、児童生徒自らが読書活動を広める取り組みを行う。 町立図書館、図書館ボランティアと連携し、学校図書館の環境整備に取り組む。 		
根拠法令等	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領 子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画 	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	児童生徒一人あたりの貸し出し冊数(冊)	37.2	39.4	40.6	37.4	
	読書は好きか(%) (全国学力・学習状況調査)	67.6	未実施	—	71.0	
	コスト					
コスト	予算額(千円)	4,153	4,229	4,229	4,129	3,900
	決算額(千円)	4,127	4,147	4,047	4,071	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> 町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 読書は、豊かな情操を育み、人格形成をしていく上で大きな役割を担っており、読解力や想像力、思考力、表現力を養うとともに、心を育てることができる活動である。読書活動の推進は、町内の小中学校の学校評価の評価項目にも設定されており、各校ごとに読書活動を充実させる必要がある。
	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> 事務は効率的に実施されているか。 コスト削減の工夫がなされているか。
2	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 朝の読書（学習タイム）、国語等の教科学習、総合的な学習の時間などを活用し、年間を通じて読書活動を行うことができた。図書委員会の活動として、読み聞かせや読書貯金、お勧めの本の紹介など、読書を進める取り組みを行った。各教科の調べ学習においても学校図書館は大変有効に活用されている。また、道徳の教科書や兵庫版道徳教育副読本を自宅に持ち帰るなど、「家読（うちどく）」を推進した。
	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> 事業の目的に照らして効果的な手法か。 施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 コロナ禍であったが、感染対策を講じて例年と同様に読書活動を推進してきた。読書に関する継続的な取組により、読書の楽しさを知り、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣の素地を形成することができた。引き続き、家庭・地域・関係機関と連携し、読書への関心を深めていく。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	朝の読書、読書の時間、総合的な学習の時間などを活用し、年間を通じて読書活動を行うことができた。小学校では、国語の授業に「ビブリオバトル」（知的書評合戦）等を取り入れ、学級単位から学年、学校へと広げ、自発的な読書活動を推進している。新たな教育課題や各教科の多様な調べ学習、児童生徒の興味関心とニーズに対応するために、さらなる蔵書の充実と学校図書館の活用の工夫を図るとともに、一人一台タブレット端末を活用した電子図書の利用も進めていく。
外部評価	授業時間をはじめ、多くの場面で読書活動が展開され、児童生徒への貸出冊数が増えていることは高く評価できる。授業の中での「ビブリオバトル」が年々拡大していることも評価したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-3 健やかな体の育成		
重点事項	(1) 体力運動能力向上の取組		
目的	運動の特性や魅力に触れ、体育・スポーツ活動の楽しさや喜びを味わうことにより、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう工夫する。 ・新体力テストの正しい測定方法を周知するとともに、児童生徒に効果的な動作を習得させる。 ・自身の記録の伸び等を実感することで喜びや励みにつなげるため、ICTを活用する。 		
根拠法令等	全国体力・運動能力調査実施要項、学校保健安全法	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	運動やスポーツをすることは好きか(%)					
	(全国体力 小学校5年 ・運動能力調査より) 中学校2年	91.2	未実施	87.5	88.3	
コスト	予算額(千円)	国費	未実施	国費	国費	国費
	決算額(千円)	—	—	—	—	—

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 積極的に運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向等を踏まえ、子どもの発達段階に応じた体力向上が必要である。発達段階や学習状況等の個人差を踏まえ、段階的な指導を行っている。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 新体力テストの正しい測定方法やこつ、効果的な動作を習得させるため、これらをまとめたホームページを活用し、児童生徒の体力への関心を高め、運動意欲の向上を図った。また、小学校においては、体育の授業のはじめのリズムジャンプの取組や、業間に全校生で取り組む活動を計画するなど、教育活動全体を通して運動習慣の定着を図っている。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 さらに子どもの運動習慣の確立と運動好きの児童生徒の増加を図り、子どもの体力運動能力の向上につなげるため、スポーツに親しみ継続的に運動ができる資質・能力を育むことが必要である。
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A:十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B:できている <input type="checkbox"/> C:あまりできていない <input type="checkbox"/> D:できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題今後の対応等	コロナ禍による体力低下や課題意識は大きく、体力・運動能力向上の取組を実施しているが、子どもたちの現状に応じた取組は手探りの部分も大きい。自身の記録の伸び等を実感させることで喜びや励みにつなげるためのICT活用や、楽しく体を動かす時間を確保する工夫など、好事例を共有していく。
外部評価	コロナ禍での体力低下で、児童生徒の発達段階に応じた指導を行っていることを評価したい。また、評価のめやすについて、主観的な部分だけでなく、運動能力といった客観的な指標も入れていただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-3 健やかな体の育成		
重点事項	(2) 食育の推進・充実（地産地消の推進）		
目的	学校給食は、成長期にある生徒の心身の発達のため、地場産物の活用を図りバランスのとれた栄養豊かな食事を提供することにより、健康の増進及び体位の向上を図るとともに、日常生活における正しい食習慣を身に付け、さらに食事を共にすることにより好ましい人間関係を育成することを目的とする。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の給食が開始して60年が経過し、中学校でも平成26年4月から開始した。 ・学校給食を通して、地産地消の大切さ、食事バランスが体にどのような影響を与えるのかを給食だより等で児童・生徒並びに保護者に周知していく。 ・人的配置は、調理員正規10人、月給制会計年度任用職員16人、時給制会計年度任用職員27人で行っている。 		
根拠法令等	学校給食法 食育基本法	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	給食対象校	小5、中2	小5、中2	小5、中2	小5、中2	
	児童生徒数合計(人)	2,464	2,462	2,487	2,470	
	アレルギー対応人数(人)	60	61	52	62	
	地産地消利用率(%)	県産62 うち町産44	県産42 うち町産29	県産47 うち町産29	県産62 うち町産39	
コスト	予算額(千円)	145,300	168,480	165,564	189,774	197,979
	決算額(千円)	135,486	157,297	160,695	179,300	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたり健全な食生活を実践するため、子どもたちから食育を進め、子どもを取り巻く大人に波及させることにより、さらなる充実を図るためにも、この事業は非常に大切である。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 平成26年度から中学校給食が開始され、栄養教諭の加配等があり、小学校2名、中学校1人の配置となり、学校で給食指導が円滑に行われた。また、定数の給食調理員の雇用もでき、給食実施事業も円滑に行われた。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 教科学習や学級活動、総合的な学習の時間等と関連付けながら、学校教育活動全体で取り組んだ。毎月献立表とともに給食だよりを児童生徒に配布し、学校・家庭での食育の必要性の周知を図った。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	子どもが食に関して、自ら考え行動できる知識や能力を身につけるため、学校園が状況や年齢・発達段階に応じた食育に関する指導を進めている。今後、家庭や地域との連携を密にしながら保護者への啓発を進めていく。地産地消利用率は令和2年度から兵庫県の調査に基づく値に変更している。
外部評価	アレルギー対応も含めて、調理から配膳まで安全が確保されていること、地産地消利用率が上がっていることは評価できる。また、家庭を巻き込み、学校教育全体で食育の取組が行われていることも評価したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-4 生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成		
重点事項	(1) キャリア教育の推進		
目的	保護者や地域の人々からの信頼を確保し、学校園が家庭・地域と連携、協力する。また、地域全体として子どもたちの成長を支える環境づくりに努め、開かれた学校園づくりを一層推進する。		
具体的取組	地域のゲストティーチャーによる様々な学習支援により、学校教育活動を充実させるとともに、学校と地域との連携を図り、創意工夫を生かした特色ある教育活動を推進する。兵庫県版「キャリア・パスポート」やキャリアノート等を活用し、9年間を通じたキャリア教育の充実を図る。		
根拠法令等	ふるさとの先輩事業実施要項	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	ふるさとの先輩事業 ゲストティーチャー(人)	62	43 (リモート含む)	45 (リモート含む)	57 (リモート含む)	
コスト	予算額(千円)	350	350	350	350	350
	決算額(千円)	350	350	350	330	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	<p style="text-align: center;">評価に対する説明等</p> <p>夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいく力(キャリアプランニング能力)をはじめ、コミュニケーション能力や課題対応能力等、自立した社会人・職業人として将来に必要な能力の育成をめざすキャリア形成の支援に、家庭や地域との連携のもと取り組む必要がある。</p>	
2	効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	<p style="text-align: center;">評価に対する説明等</p> <p>各小中学校において、児童生徒の視野を広げ知見を与える取組や多様な体験活動が実施された。保護者や地域の人々、関係機関等との連携をさらに充実させ、児童生徒にとって身近なキャリアモデルとなる人材の発掘に努める必要がある。</p>	
3	有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	<p style="text-align: center;">評価に対する説明等</p> <p>地域のゲストティーチャーによる講話の機会を設けることにより、地域と密着した取組となった。また、ゲストティーチャーが子どもたちとともに活動することで、児童生徒にとって身近なキャリアモデルを示すことが可能となり、有効なキャリア教育となっている。また、それらの体験学習から、学ぶことや働くこと、生きることの尊さを感じ、今後の生活にどう生かすのかや社会における自身の役割を考える機会となった。</p>	
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	教育活動やその他の学校運営に関する情報の積極的な提供をしたり、授業以外の様々な場面で地域人材を活用したりしていくことにより、特色ある教育活動と開かれた学校づくりを一層推進する必要がある。	
外部評価		リモートを含めてゲストティーチャーを招聘する機会が増加し、それに伴い教育成果が向上したことは評価したい。兵庫県版「キャリア・パスポート」を活用し、9年間を通じたキャリア教育の充実にも今後も努めていただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	1-4 生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成		
重点事項	(2) 幼小中一貫した国際理解教育の推進		
目的	国際理解教育を低年齢期より始めることにより、グローバル化する社会の一員として主体的に行動する素地を養う。		
具体的取組	外国語指導講師の週当たりの配置時間を29時間から40時間に増やすことで、学校生活全般で学んだ知識を活用したり外国語指導講師とコミュニケーションをとったりできる時間を確保した。また、幼稚園に月2回程度、小学校1・2年生に月1回、小学校3・4年生に週1回の外国語活動、小学校5・6年生に週2回の外国語の授業、中学校の全学級に週1～2時間の割合で外国語の授業を実施し、幼小中一貫した国際理解教育に取り組む。		
根拠法令等	学習指導要領 幼稚園教育要領	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	外国語指導講師数(人)	5	5	5	5	
	町内研修回数(回)	14	12	12	13	
コスト	予算額(千円)	21,400	21,400	23,250	23,250	24,762
	決算額(千円)	21,400	21,400	23,250	23,250	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 外国語を通じて、言語や文化について理解を深め、コミュニケーションを図る態度の育成が求められる。そのためにも、幼稚園・小中学校に外国語指導講師を配置し、外国語に触れる時間を保証した。幼児期からの国際理解教育を実施することで、グローバルな視点を持ち、様々な国の事情を学ぶことができ、中学校での学びへ円滑に接続することができた。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 幼稚園、小学校、中学校のクラス数を考慮しながら委託業者と協議し、外国語指導講師の配置を決めており、効率的に活用できた。また、更なる充実を図るために、外国語指導講師と担当が情報交換を行い、授業研究等を行った。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 幼稚園と小学校、小学校と中学校との連携を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うための学習が可能となっている。校種間の連携を積極的に行うことで、切れ目のない学びにつなげていった。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	令和2年度より小学校5・6年生において外国語が教科化された。担任・英語専科教員・指導補助が連携して外国語教育を展開できている。令和3年度は中学校の学習指導要領も新しくなり、対話的な言語活動が一層重視されているため、外国語指導講師の配置時間を週当たり40時間にすることで、小中学校共に外国語に慣れ親しむ環境を充実させることができた。また、令和4年度から幼稚園において月2回の外国語活動を行うことができるようになった。幼いころからリスニング力が向上し、多様な文化や外国語への抵抗感が小さくなってきているようだ。令和5年度は生徒の英語力を検証するために中3を対象に英語検定を実施する。今後とも幼小中の9年間を見据えた国際理解教育を推進していく。
外部評価	小中学校での配置時間週当たり40時間の確保に加え、幼稚園において月2回の外国語活動が実施できたことは高く評価できる。令和5年度は、中学3年生に対しての英語検定が実施され、成果が期待される場所である。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	I-4 生き方の探求、社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成		
重点事項	(3) 情報教育の推進		
目的	ICT機器を活用した教科指導により、学習活動の充実を図る。また、学校における校務のICT化を進め、業務の効率化により負担軽減を図る。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想等により整備されたICT環境を適切に活用した学習活動の充実と、ICTの特性を生かした学びを推進する。 ・情報モラルの指導を徹底するとともに、児童生徒の自主的・主体的な取組を促進する。 ・ICTを活用した教科指導力の向上に向けた教員のパソコン研修を実施する。 ・校務支援システムを活用した事務処理を行い、業務の効率化を図る。 		
根拠法令等	稲美町教育情報セキュリティポリシー 個人情報保護条例・個人情報の保護に関する法律	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	パソコン台数(台)	527	527	3,164	3,165	
	研修受講教職員数(人)(校内研修除く)	119	174	146	166	
	教員のICT活用指導力等の実態(%)	国 76.7 町 76.9	国 77.3 町 79.5	国 81.5 町 79.9	国 83.3 町 83.6	
	コスト					
	予算額(千円)	48,792	219,137	125,769	119,755	94,646
	決算額(千円)	47,202	102,204	125,759	114,923	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 1人1台タブレット端末を用いて、ICT環境を学習や情報収集の手段として日常的に活用できるように、学習活動の充実を図ることができた。また、教員がICTを効果的に活用し、授業内容の工夫に努めるとともに、成績記録や答案等の個人情報及びデータを記録した媒体について適正な管理体制を確立し、教員1人1人の管理徹底を図ることができた。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 ICT機器等の基本的な操作や、効果的に活用する教育方法の習得を図るため、タブレット端末を使った授業展開の工夫について研修を行うとともに、ICTの特性を生かした学びの充実を図るため、ICT環境や学習支援ソフトを使用した学習の活用事例をまとめている。また、校務支援システムを使った児童生徒の出欠管理、成績処理を行った。町内の学校における帳票様式の統一、データの一括管理および共有など、業務改善を図った。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 GIGAスクール構想等により導入されたタブレット端末や電子黒板等のICT機器を活用して、児童生徒がICT機器を活用する機会を多く持つことができている。また、Web会議システムや教育用クラウドサービス、学習支援ソフトを活用し、個々の児童生徒に応じた学習を行うことができた。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	整備された教育用コンピュータを使って、業務の効率化、情報の共有化や発信力が向上することが期待できる。また、それらのICTを活用した教科指導をさらに推進させるため、授業実践事例を積み重ね、教員の指導力向上を図っていく。
外部評価	GIGAスクール構想で児童生徒1人1台のタブレット端末の環境が整い、活用等の充実に加えて、教員の指導力向上にも期待したい。今後の評価のめやすについては、量的な観点から質的な観点も含めて検討していただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅱ-3 安全・安心な教育環境の整備と安全教育の充実		
重点事項	(1) 学校施設の改善と充実（大規模改造工事）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改造検討委員会等で策定された大規模改造整備方針（コンセプト）を重点項目として整備内容を整理し設計に反映させる。 充実した教育活動を行うためにも、高機能かつ多機能な施設環境を備えるとともに豊かな人間性を育むのにふさわしい快適で十分な安全性、防災性、防犯性の確保や衛生的な環境を整備する。 		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> 大規模改造検討委員会や学校と調整し、大規模改造整備方針・整備内容を策定。 整備方針や整備内容を整理し、改造工事の設計を行う。 整備方針等を整理された実施設計による改造工事を行い、施設の改善と充実を図る。（整備計画年次 稲美北中学校 H25～R4、母里小学校 H28～R5、天満幼稚園 R5） 		
根拠法令等		担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	稲美北中学校 母里小学校 天満幼稚園	平成25年度～令和4年度完了 平成28年度～令和5年度完了予定 令和4年度～令和5年度完了予定				
コスト	予算額(千円)	繰越 1,045,462 現年 1,716	繰越 4,928 現年 12,298	繰越 887,136 現年 36,294	繰越 145,374 現年 149,979	繰越 139,664 現年 94,848
	決算額(千円)	繰越 848,923 現年 1,716	繰越 4,888 現年 11,941	繰越 700,169 現年 30,571	繰越 118,724 現年 129,060	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1 必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> 町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 建物の経年による施設の不具合が増え続け、教育環境においても改善しなければいけないため、大規模改造は必要である。
2 効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事務は効率的に実施されているか。 コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 大規模改造検討委員会や学校と施設の整備方針や整備内容を整理、調整し、必要性に応じた改造を行うことで効率性を向上させた。
3 有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> 事業の目的に照らして効果的な手法か。 施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 学校や大規模改造検討委員会により、学校・地域・その他関係者の意見を集約した。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	令和4年度は稲美北中学校大規模改造Ⅴ期工事、天満南小学校屋内運動場床改修工事、母里・天満東小学校昇降機棟増築工事が完了し、新型コロナウイルス感染症対策として加古・母里・天満南・天満東幼稚園でトイレ改造を行った。また、令和5年度実施予定の母里小学校大規模改造Ⅲ期工事、天満幼稚園大規模改造工事の実施設計を行った。
外部評価	稲美北中学校の大規模改造工事や母里小学校と天満東小学校の昇降機棟増築工事が完了した。また、母里小学校と天満幼稚園の大規模改造工事の実施設計が行われ、順調な工事の進捗に期待したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅱ-3 安全・安心な教育環境の整備と安全教育の充実		
重点事項	(2) 安全教育と防災教育の充実		
目的	阪神・淡路大震災の体験を風化させることなく、震災・学校支援チーム（EARTH）等と協力し、震災の貴重な教訓を語り継ぐとともに、子どもたちが災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、自らの安全を確保できるようにする。		
具体的取組	各学校園において災害対応マニュアルを作成し、それを活用した防災訓練を実施し、防災体制の整備と、緊急時の対応に関する研修に取り組む。		
根拠法令等	学校保健安全法	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	防災訓練回数(回)	48	32	43	46	
	防災マニュアルの整備率(%)	100	100	100	100	
	避難所対応記載校(校)	6/7	7/7	7/7	7/7	
コスト	予算額(千円)	0	0	0	0	0
	決算額(千円)	0	0	0	0	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 学校園において、家庭、地域、関係機関との連携と協力を図り、教育活動全体を通して、防災教育を計画的かつ日常的に進めている。各学校園内の施設、遊具などの安全点検も定期的に行われている。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 家庭、地域、消防署、消防団、地域防災組織等の専門機関と連携を図り、効率的で充実した訓練を実施している。休み時間の災害発生など、さまざまな場面を想定した訓練を行っており、園児児童生徒の発達に応じた命を守る行動がとれる子どもの育成を図った。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 阪神・淡路大震災から27年が経過し、防災に対する意識を高めようと、町行政、地域防災組織、震災・学校支援チーム（EARTH）員等との連携した防災訓練や学校で避難所を開設する訓練が必要である。今後も関係組織等が連携して取り組んでいくことが必要である。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	防災教育の推進は自らの命を守るための個人の課題であるとともに、地域全体の課題でもある。災害発生時に被害を軽減するために、学校園と地域、関係機関が連携した取組の充実が重要である。また、学校園防災体制を充実していくために学校園や地域の実情にあった防災マニュアルの継続的な修正が必要である。
外部評価	学校における教育活動は危機と隣り合わせであり、防災マニュアルを継続的に修正し、地域と連携した実践的な取組に結びつくことを期待したい。防災訓練の回数がコロナ禍前に戻りつつあることは評価したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	II-3 安全・安心な教育環境の整備と安全教育の充実		
重点事項	(3) 児童生徒の安全対策の推進（登下校の安全）		
目的	通学路の安全点検を定期的に行い、危険箇所等に関する情報を学校間や家庭・地域と共有するとともに稲美町通学路安全対策協議会を組織し、関係機関と協議し、順次危険箇所を整備する。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町通学路安全対策協議会で関係機関と協議を行う。 ・危険箇所を学校・家庭・地域と共有する。 ・危険箇所の整備を行う。 ・町内小学校通学路 29 箇所に交通安全指導員を配置する。 		
根拠法令等	稲美町通学路交通安全基本方針 稲美町交通安全指導員設置及び運営要綱	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	稲美町通学路安全対策協議会 交通安全指導配置箇所	継続中 26	継続中 27	継続中 29	継続中 29	
コスト	予算額(千円)	16,079	16,875	17,835	19,065	20,295
	決算額(千円)	14,377	15,232	16,592	17,242	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 危険箇所等に関する情報を学校間や家庭・地域と共有する必要がある。 指導員配置場所については、学校からの通学路児童数と地域との要望を調整のうえ決定した。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 関係機関と連携し、必要性に応じた整備を行った。交通安全指導員の指導時間は児童・生徒の登下校時間に限定しており、1日概ね3時間程度とした。また、被服費についてはベスト・雨具を貸与としており、コスト削減に努めた。登下校時の通行量や信号機の設置等を踏まえ指導場所等も考慮していく必要がある。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 稲美町通学路安全対策協議会において関係機関の意見を集約した。交通安全指導員配置により児童の登下校時の事故もなく、また児童を見守るという意味での事件抑止についても安全確保に大きく寄与した。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	稲美町通学路安全対策協議会については、危険箇所等に関する情報について今後も学校や家庭・地域と共有し、関係機関と協議しながら順次危険箇所を整備する。交通安全指導員配置については、毎年学校に通学する児童数の確認を行い、人数ならびに交通量等で配置人数を決定していく。
外部評価	稲美町は校区が広く、危険箇所も多い。稲美町通学路安全対策協議会を通じて、危険箇所等 を関係機関と共有し、改善が図られていることは高く評価したい。また、毎年、交通安全指 導員の配置場所についても、ニーズを踏まえ検討していることを評価したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅱ-4 特別なニーズに対応した教育		
重点事項	(1) 特別支援教育の充実		
目的	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対して、支援の充実を図る。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育指導補助員を、各学校園へ配置する。 ・ 学校園における医療的ケア実施体制を充実させる。 ・ 発達支援連絡会等を通して健康福祉部等と連携し、情報交換を行う。 ・ 保護者や関係機関にサポートファイルの作成と活用を勧めたり、福祉部局と連携を深めたり、切れ目のない支援を構築する。 		
根拠法令等	稲美町特別支援教育指導補助員配置要綱 稲美町立学校園医療的ケア実施要綱	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	特別支援教育指導補助員の配置人数(人)	30	32	31	36	
	コスト					
	予算額(千円)	47,148	47,886	51,770	62,329	67,890
	決算額(千円)	35,710	36,068	40,212	55,902	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・ 町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・ 事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 さまざまな支援を必要とする子どもたちが、安心して学校園での生活を送るために、本人、家族、そして周囲の人が情報を共有するとともに、県立特別支援学校のセンター的機能を活用する等、専門機関とも連携を行っていく必要がある。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務は効率的に実施されているか。 ・ コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 特別支援コーディネーター、通級指導教員、学級担任、特別支援教育指導補助員が連携するとともに、県立特別支援学校等の専門機関からの支援を得ながら、多面的に特別な支援が必要な幼児、児童生徒に対して支援の充実を図った。また、幼稚園においてコンサルテーションや発達相談会など研修の機会を増やした。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・ 施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 各学校園における必要な支援状況を把握し、特別支援教育指導補助員を配置することで、よりきめ細かな対応ができた。また、近隣の専門機関や福祉機関との連携を行い、支援の充実を図ることができた。幼稚園における教員の研修では、子どもへの具体的な支援方法を学び、支援の方向性や手立てなどを学ぶことができ、専門性の向上に繋がった。
総合評価	判定	<input checked="" type="checkbox"/> A : 十分できている <input type="checkbox"/> B : できている <input type="checkbox"/> C : あまりできていない <input type="checkbox"/> D : できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題今後の対応等	特別支援学級に在籍する児童生徒や特別な支援が必要な園児、児童生徒は増加傾向にあり、適切な対応が必要である。また、医療的ケアが必要な子どもたちのために、介護タクシーの手配だけでなく、看護師同乗の通学支援や園での学校看護師配置等、体制を整えた。教員の資質向上のための研修の充実や特別支援教育指導補助員のような人的な支援とともに、健康福祉部等との関係機関と連携した支援体制が今後も継続して必要である。
外部評価	幼稚園・保育園と小学校の連携を深めるため、幼稚園でのコンサルテーションや発達相談会などを実施したことは高く評価できる。また、特別支援教育指導補助員の増員が計画的に進められており、引き続き充実を期待したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅱ-5 幼児期の教育の充実		
重点事項	(2) 子育ての支援(預かり保育の推進)		
目的	町立幼稚園において、幼稚園の教育課程に係る教育時間以外の時間帯に預かり保育を実施することにより、園児の心身の健全な発達を図るとともに、保護者の子育てを支援することを目的とする。		
具体的取組	預かり保育の基準により、月曜日から金曜日の教育時間終了後から午後4時まで、月を単位とする常時預かりと日を単位とする一時預かりの区分で、在園児を有料で預かっている。令和3年度から長期休業期間中の預かり保育を開始した。		
根拠法令等	稲美町立幼稚園における預かり保育の実施に関する条例・同施行規則・幼稚園教育要領	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	延べ預かり人数(人)	14,099	14,144	15,630	16,195	
	預かり希望人数(人)	300	283	274	273	
コスト	予算額(千円)	9,350	12,678	12,103	10,885	10,539
	決算額(千円)	8,812	10,588	8,966	9,018	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
		預かり保育事業は、利用希望者のニーズには対応でき、臨時・急遽預かりにおいても十分対応している。令和3年度から、保護者から要望のあった長期休業期間中の預かり保育を開始した。	
2	効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
		令和元年10月より、保育料無償化に伴い預かり保育料においても保護者の就労状況により負担軽減の対象となった。事業の運営経費は、保護者からの利用料と国・県補助金により行っている。専任の指導員を配置しているが、園の全職員で取り組むという姿勢と既存施設の利用もあって効率的な運営が行われている。	
3	有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
		預かり保育を利用し、町が子育て支援を行うことにより、保護者の育児負担の軽減を図った。	
総合評価	判定	<input checked="" type="checkbox"/> A : 十分できている <input type="checkbox"/> B : できている <input type="checkbox"/> C : あまりできていない <input type="checkbox"/> D : できていない	
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	平成23年度から実施している預かり保育事業で、幼児期にふさわしい無理のない活動、多様な体験ができる活動、保護者が幼稚園と共に幼児を育てるという意識を高めることができる取組等を工夫して、内容がより充実するよう努める。また、保育料無償化制度における保護者負担の軽減が図られたことにより、就労されている保護者や就労を希望されている保護者にとって利用しやすい事業となっている。	
外部評価		園児が減少している中、預かり希望人数がほぼ横ばいであることから、ニーズの高さがうかがえる。また、国・県補助金を入れ、コスト削減を行い、保護者の負担軽減が図られていることは高く評価したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅲ-1 学校・家庭・地域の連携、協働の推進		
重点事項	(2) 教育環境の整備（学校協働ボランティア活動）		
目的	学校協働ボランティア制度を導入し、地域における学校支援体制を整備することにより、学校全体の負担軽減を図る。また、地域の様々な人材を活用する場を設定することで、地域の教育力の活性化を図る。		
具体的取組	そろばん、習字などの授業補助ボランティア活動や草刈、庭園管理などの環境整備ボランティア活動を実施する。		
根拠法令等	稲美町学校・家庭・地域の連携協力推進委員会設置要綱	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	ボランティア活動日数(日)	817	742	945	892	
	延べ人数(人)	3,783	2,429	2,864	3,377	
コスト	予算額(千円)	476	473	478	460	460
	決算額(千円)	441	419	373	418	

評価項目	評価	評価の主な観点等	
1	必要性	B	・ 町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・ 事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
		評価に対する説明等	
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	学校協働ボランティアの活動（授業補助、庭園管理）により、教育環境の充実とともに、学校全体の負担軽減を図る。ボランティアの活性化及び適正な運用には、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの配置並びにそれを統括する統括コーディネーターも必要である。	
2	効率性	A	・ 事務は効率的に実施されているか。 ・ コスト削減の工夫がなされているか。
		評価に対する説明等	
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	地域コーディネーターが地域学校協働本部のほかの役割を行いながら、学校とボランティア間の連絡調整を行うことにより、コストを削減している。	
3	有効性	B	・ 事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・ 施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
		評価に対する説明等	
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	学校からの要望によるボランティアの活動は効果的である。	
総合評価	判定	□A：十分できている ■B：できている □C：あまりできていない □D：できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	地域コーディネーター及び学校協働ボランティアの必要性が高まる一方、ボランティアの負担が多くなってきている。ボランティアの募集を行い、新しい方にボランティアに加入していただき、特定のボランティアの方の負担を減らしていく。	
外部評価	ボランティアの負担が増加している現状から、ボランティアの負担軽減のために適切なコーディネート機能の整備を期待したい。		

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅲ-1 学校・家庭・地域の連携、協働の推進		
重点事項	(5) 地域学校協働活動「いなみいきいき共育ネット」の充実（地域学校協働活動等）		
目的	地域全体で子どもたちの健全な成長を支え、未来を担う子どもたちに生きる力と夢を育む事を目的とする。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教員と地域住民が学習支援を行う地域未来塾を夏・冬休みを含む土曜日等に8回程度実施。 ・ものづくりや地域の歴史に触れる土曜体験活動を実施。 		
根拠法令等	稲美町学校・家庭・地域の連携協力推進委員会設置要綱	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	参加者の満足度(%) (地域未来塾等)	98	95	98	96	
コスト	予算額(千円)	722	1,202	1,928	1,381	1,381
	決算額(千円)	649	1,057	985	1,039	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 土曜日において、子どもたちに、これまで以上に豊かな教育環境を提供し、その成長を支えることが必要である。そのためには、学校、家庭、地域が連携し、役割分担しながら、地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会の充実に取り組むことが重要である。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 事業の募集チラシ作成、事後アンケートを適切に実施した。 土曜体験活動にJAの「ふぁーみん食農教育支援金」を活用してコストを削減している。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 地域未来塾は、児童・保護者からも学力がついたと好評を得ている。 土曜体験活動は、地域住民が講師になることもあり、ものづくり体験や地域の歴史などを学ぶことができる良い機会となっている。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題 今後の対応等	人と人のつながりを活かして、地域未来塾の学習支援員や土曜体験活動の講師など地域住民と連携し、子どもと大人が共に育っていくことで地域活性化を目指していく。
外部評価		長期休暇を含めた土曜日等に行われる児童の学習支援の開催、地域住民が講師になる体験活動の開催は、児童生徒の居場所や世代間交流の場として意義があると評価できる。

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅲ-2 開かれた学校園作りの推進		
重点事項	(1) コミュニティ・スクールの推進		
目的	地域住民や保護者等が学校運営に参画する仕組みである学校運営協議会制度を取り入れ、コミュニティ・スクールとしての活動を充実させる。そして、学校運営協議会による意見や評価をもとに、地域と学校が連携して学校運営の改善を図る。		
具体的取組	幼稚園は引き続き学校評議員制度を用いているが、令和4年度は、小学校にも学校運営協議会制度を導入し、町立小中学校全てでコミュニティ・スクールの取組を推進した。学校運営協議会委員には地域の代表者として学校運営に参画いただき、課題と目標を共有しながら「地域とともにある学校づくり」に取り組んだ。学校評価においては、町立学校園の保護者アンケートを実施するとともに、学校運営協議会委員と学校評議員からいただいた教育活動に対する意見、評価、助言を活用して、より良い学校園になるように活動している。		
根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	学校運営協議会制度導入率(%)	14 (1/7校)	29 (2/7校)	57 (4/7校)	100 (7/7校)	
コスト	予算額(千円)	1,351	2,261	2,465	3,310	3,275
	決算額(千円)	652	1,831	1,813	2,701	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 保護者や地域の方々から学校園に寄せられる期待は大きく、より信頼される学校園づくりを進めるためには地域の学校園評価を適切に実施し、評価を学校運営に活かしていくことが重要である。学校運営協議会制度を導入することで、時宜になかった地域の意見を収集することができ、課題や改善点は時期を逃さず対策を検討することができる。また、コミュニティ・スクールとしての取組は、学校が地域の学びの場となったり、児童生徒が地域で活躍できる機会をつくったりすることにも繋がっている。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 令和4年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、広く地域に開くような活動は難しかった。しかし、中学校では、従来の活動内容を充実・発展させる取組ができ、小学校では、各校区の特徴を活かした独自の取組が始まった。評価においては、学校運営協議会委員に今まで以上に学校行事やコミュニティ・スクールとしての活動に参加いただくことで、学校や児童生徒の実状を知っていただき、具体的に前向きなご意見をいただくことができた。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 学校運営協議会委員からの意見と保護者等の評価をもとに、学校園が一年間の取組について考察し、より現実的な視点から成果と課題を明らかにすることができた。学校園関係者評価を公開することは、各学校園での現状と教育課題に取り組む姿を地域の方々を知っていただくことができ、信頼関係の構築に繋がっている。また、年度末に各学校運営協議会と教員とで校区の課題と目標について熟議を行うことで、来年度のビジョンを共有し、具体的な方策を講じての着実な学校改善に取り組む。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	学校運営協議会で学校運営についての評価を行うことで、課題の明確化とより具体的な改善策を示すことができた。今後は、感染症対策が緩和されたこともあり「地域とともにある学校」として、各校区の特徴を活かしたコミュニティ・スクールとして取組をさらに推進する。
外部評価	全ての小中学校に学校運営協議会制度を導入したことを高く評価したい。各校区の特徴を活かした取組が始まり、今後さらなる活動の充実を期待をしたい。評価のめやすについて、令和5年度以降は質的な指標を入れていただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅲ-3 地域・家庭の教育力の向上と子育て支援		
重点事項	(1) 放課後子どもプランの推進（放課後児童クラブ事業）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を持つ保護者への子育て支援 ・児童の健全育成 		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度より、父母会による運営から町運営へ転換し、現在、町内5小学校に児童クラブ9施設を設置。 ・指定管理者制度を利用した管理運営を実施。 第Ⅰ期指定管理者 ㈱小学館集英社プロダクション（平成25年度～平成29年度） 第Ⅱ期指定管理者 ㈱小学館集英社プロダクション（平成30年度～令和4年度） 第Ⅲ期指定管理者 キャレオス㈱（令和5年度～令和9年度） 		
根拠法令等	児童福祉法	担当課	教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	利用者アンケート(%) (概ね満足以上)	88.4	92.0	90.0	90.0	
コスト	予算額(千円)	84,337	42,769	37,133	49,070	54,395
	決算額(千円)	79,141	38,034	34,263	44,555	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 保護者が労働などで、昼間家庭にいない小学校に通う児童に、家庭に代わる安心で安全な生活の場の確保が必要である。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 指定管理者制度を利用することで、適正かつ安定的な管理運営が実施できる。また、町が設置している指定管理者評価委員会により、指定管理者の運営状況等の確認・評価を行う。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 保護者が仕事で放課後の保育が出来ない児童の支援として、家庭に代わる生活の場を提供し、安全で適切な遊びの指導や育成を図ることができ、また、保護者への支援として、安心して仕事と子育てが両立できる施設である。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	指定管理者により、施設の安定した運営と統一した利用形態が図られ、児童や保護者が安全で安心して利用できる運営を行っている。また、令和5年度に母里児童クラブで待機児童が発生する見込みとなったため、令和5年度の母里第2放課後児童クラブの開始に向け、令和4年度中に保育室等を整備した。 令和4年度末に現指定管理期間が満了となるため、次期指定管理者を決定する選定委員会を開催し、指定管理者を決定し、議会承認を得た。令和5年度から新しい指定管理者となるが、全9クラブの運営を指定管理者と協議を行い、今後も安全で安心して使用できるクラブを運営していく。
外部評価	令和5年度の母里第2放課後児童クラブの整備を早急に対応した点を評価したい。また、新しい指定管理者に変わっても、引き続き利用者アンケートの満足度の維持と安全・安心の運営を期待したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	Ⅲ-3 地域・家庭の教育力の向上と子育て支援		
重点事項	(3) 家庭教育の推進（家庭教育学級・異世代交流いなみネット事業）		
目的	核家族化や少子化が進む現代において、家庭教育の果たす役割は重要であり、また子どもに与える影響も大きく、保護者の教育力の向上が必要である。学校・家庭・地域が一体となり、異世代の交流を図ることにより、青少年の健全育成及びこころ豊かな人づくりを推進する。		
具体的取組	保護者の教育力向上を図るため、各幼稚園において講演会や親子ふれあい行事等を実施する。また、地域の各種団体が関わり、学校・家庭・地域が一体となった異世代の交流を図る。		
根拠法令等	幼稚園教育要領、家庭教育学級実施要領、異世代交流いなみネット事業実施要領	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	参加者人数(人)					
	家庭教育学級	954	577	182	185	
	異世代交流事業	6,981	3,873	3,937	3,937	
コスト	予算額(千円)	1,168	1,147	1,147	1,147	1,147
	決算額(千円)	1,075	571	706	706	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	B <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 異世代交流を図ることにより、青少年の健全育成及び、こころ豊かな人づくりを推進する。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 各幼稚園・各団体は、限られた予算内で工夫しながら、親子運動教室などの家庭教育学級や三世交代交流スポーツ大会などの異世代交流いなみネット事業を実施している。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 保護者の教育力向上や異世代交流など事業の目的に沿って、各幼稚園・各団体が各事業の計画段階から実施にいたるまで自主的に取り組んでいる。 家庭環境の多様化に伴う家庭教育の課題を解決するために、子どもたちを中心とした異世代交流を進めていく。
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A：十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題 今後の対応等	保護者の教育力の向上や地域での異世代の交流のため、保護者や地域住民の「心の交流の場」として、引き続き事業を継続していく。
外部評価		幼児期に、幼児と保護者、幼児相互、保護者相互がそれぞれ交流を通して親交を深めるとともに、子育てや地域との関係を学んでいく貴重な機会であることから、さらなる充実を図っていただきたい。

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-1 生涯学習社会実現のための基礎整備		
重点事項	(4) ライフステージに応じた学びの充実（高齢者の学びの機会と充実）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が人間としての円熟をめざし、学生の自主活動により広く学園生活の向上と学生相互の親睦を図る。 ・長寿社会における生きがいがづくりに寄与する。 		
具体的取組	あたご大学（高齢者大学） <ul style="list-style-type: none"> ・学生 306 人（4 年制・4 年修了後 0B として在籍） ・例年、年間 18 回開催、講座を実施している。 ・午前中に講座（全員）、午後はクラブ活動（11 クラブ）を実施している。 		
根拠法令等	稲美町立公民館の設置及び管理に関する条例、同施行規則	担当課	文化の森課

		元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
評価のめやす(基準)	学生数(人)	471	436	340	306	
	講座出席率(%)	80	—	77	77	
コスト	予算額(千円)	1,182	405	1,182	1,182	1,182
	決算額(千円)	1,055	72	957	1,168	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 例年、午前中の講座の出席率は 80% と高く、高齢者の生きがいがづくりと交流の場として必要である。	
2	効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 企画・運営等は、あたご大学自治会と連携を取りながら進めている。町の費用は、文化会館使用料であり、コスト削減に努めている。	
3	有効性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 今後も高齢者が増加するなかで、あたご大学は生きがいがづくりの場所として高齢者福祉の一助を担っている。また、高齢者同士の重要なコミュニケーションの場となっている。一方、講座を通して、高齢者自身を高めるとともに、社会参画・地域貢献が、今以上に求められる。	
総合評価	判定	□A：十分できている ■B：できている □C：あまりできていない □D：できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	新型コロナウイルス感染症予防対策として、今後、生活様式が大きく変化するとともに、あたご大学の活動もコロナ禍の経験をふまえ、それにあつたカリキュラムや平常時の集合形式の講座だけでなく、感染症が蔓延した場合の集合形式によらない講座の実施方法の検討などの対応が必要である。	
外部評価		学生数が減少傾向ではあるが、出席率が高く高齢者の生きがいがづくりと交流の場になっている。生活様式が大きく変化した現在の生涯学習のあり方について検証が必要になってくる。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-2 生涯にわたるスポーツの推進		
重点事項	(1) 地域における身近なスポーツ環境の整備（スポーツクラブ21の充実）		
目的	スポーツクラブ21いなみは、会員が日常生活の中で自発的にスポーツを楽しみ、各自の健康・体力を保持増進するとともに、相互の親睦を図り、地域社会の連携と明るく豊かな生活の実現や青少年の健全育成に資することを目的とする。		
具体的取組	生涯学習課スポーツ係にスポーツクラブ専属の事務補助員を1名配置することにより、日常的な事務（会員募集・施設使用申込み等）を行っている。		
根拠法令等	スポーツクラブ21いなみ規約	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	会員数(人)	519	469	486	481	
コスト	予算額(千円)	971	995	1,007	1,007	1,020
	決算額(千円)	924	960	981	1,000	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	B <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 平成22年度に「スポーツクラブ21いなみ」として統合した。 会員数が微減であるが、子どもから高齢者まで生涯にわたるスポーツへの取組がなされている。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 生涯学習課スポーツ係に事務補助員を配置することにより、問い合わせ及び加入窓口として日常的なサービスや、募集事務、各支部への連絡調整ならびに各種団体との連絡調整事務を効率的に行った。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 統合した「スポーツクラブ21いなみ」の事務局を生涯学習課スポーツ係に置くことにより、日常的な事務（会員募集・施設使用申込み等）を行うことができる。また、会員の窓口として効果的に補助員制度が機能した。
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A：十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題 今後の対応等	会員数の拡大が一つの課題となっており、子どもから高齢者まで生涯にわたるスポーツへの取組の橋渡しの存在ならびに地域のスポーツ活動の拠点として、町民体力測定等の事業を継続して実施する。
外部評価	「スポーツクラブ21いなみ」が、地域スポーツの振興に果たす役割は大きい。一定の参加者を得ており、引き続き、内容の充実と周知に努めていただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-2 生涯にわたるスポーツの推進		
重点事項	(1) 地域における身近なスポーツ環境の整備 (いなみ新春万葉マラソン大会事業)		
目的	大会は「楽しく走ろう、健康づくり」をテーマに、生涯スポーツとしてのマラソンを通じて健康ですこやかな町づくりを目指すとともに、広く参加者に万葉のふるさと稲美町をPRすることを目的とする。		
具体的取組	大会は、新春万葉マラソン大会実行委員会に委託し、ハーフ(6部門)、10km(6部門)、5km(5部門)、3km(2部門)、1.5km(6部門)、ファミリー1.5kmの26部門で実施している。ファミリーの部を除く25部門で1位～6位を表彰している。		
根拠法令等	いなみ新春万葉マラソン大会開催要項	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	全体参加者数(人)	2,150	—	—	—	
	町内参加者数(人)	407	—	—	—	
コスト	予算額(千円)	3,000	3,000	3,000	0	0
	決算額(千円)	2,986	—	—	—	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 近年は、全国からの参加者があり、稲美町をPRする機会としては効果が期待できる。また、スポーツ団体の連携・協働により大会運営を行っており、稲美町スポーツ推進計画の重点分野である「スポーツ団体の連携・協働の推進」につながる。	
2	効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 委託での運営を行っている。また、運営の一部を約200名のボランティアの協力を得てコストの削減を図っている。 1月2日の開催で交通規制面では交通量が少ないなどのメリットがある。	
3	有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 いなみ新春万葉マラソン大会への参加を目標に日々体力づくりを続けることにより、住民の心身の健康に寄与している。	
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 ■休止 □継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	住民の健康づくりを推進するため、引き続き、町内参加者の増加を図る必要があるが、新型コロナウイルス感染症対策等を考えると、新しく住民の健康づくりの場の提供を考えていけない時期に来ている。 また、当事者についても町イベントの大幅な見直しの対象となっているため休止とした。	
外部評価	令和4年度を含めて3年連続で中止となった。全国からの参加者があり、中止は残念である。次年度以降の開催に期待したい。		

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-3 芸術・文化の向上		
重点事項	(1) 公民館活動の推進（公民館事業）		
目的	生涯学習の拠点として住民一人一人の生活文化を高める機会と場所づくりを行うことにより、生きがいづくり・心身健康増進及び芸術文化の振興を図るとともにさらなる生涯学習の推進、文化の向上をめざす。		
具体的取組	展示会の実施 ・美術展、菊花展、企画展等各種展示会を11事業実施した。 各種教室 ・ふれあい体験教室（前期）事業、サマースクール、ふれあい体験教室（後期）を実施した。 成人式		
根拠法令等	稲美町立公民館の設置及び管理に関する条例、同施行規則	担当課	文化の森課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	利用者数(人)	39,101	19,182	30,801	49,953	
	コスト					
	予算額(千円)	7,143	5,013	7,319	7,298	7,175
	決算額(千円)	6,544	3,923	6,265	6,439	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
		例年、生涯学習の拠点として、子どもから高齢者までを対象として幅広く事業を実施している。ふれあい体験教室は、小学生を対象として学校では体験できないことを実施している。	
2	効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
		各種展示会の搬入・搬出・受付等は、関係団体との連携により実施しており、人手の確保を行うなど活動の活性化と経費の節減を図った。一方、関係団体も高齢化が進んでおり、弱体化が懸念される。	
③	有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
		各種展示会では、関係団体との連携を図り、参画と協働による事業の推進ができており、町の文化芸術の振興の機能と生涯学習の場として寄与している。	
総合評価	判定	<input checked="" type="checkbox"/> A：十分できている <input type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない	
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	新型コロナウイルス感染症予防対策として、生活様式が大きく変化するとともに、公民館活動も講座の設定や平常時の集合形式の講座だけでなく、感染症が蔓延した場合の集合形式によらない講座の実施方法の検討や、講座1回あたりの募集人員を少なくしつつ、複数回開催するなどの対応が必要である。	
外部評価		コロナ禍前を大幅に上回る約5万人の利用者数は評価に値する。また、経費については、同水準で実施できている。引き続き、充実した取組を期待したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-3 芸術・文化の向上		
重点事項	(2)図書館運営の充実（電子図書館サービス事業）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館利用者が、スマートフォン等でインターネットに接続し、24時間いつでも、どこにいても電子書籍を読むことができるインターネット上の図書館サービスを提供する。 ・読み上げ機能や文字拡大機能等活用により、高齢者・障がい者等外出困難な方に対する利用サービスの向上を図る。 		
具体的取組	広報等サービスの普及・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館ホームページの整備 ・町内小中学校へ啓発チラシ等の配付 ・広報誌等への掲載 		
根拠法令等		担当課	文化の森課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	電子書籍導入数(冊)	—	—	—	1,534	
	利用登録者数(人)	—	—	—	6,499	
	貸出利用者数(人)	—	—	—	2,165	
	貸出タイトル数(冊)	—	—	—	1,399	
コスト	予算額(千円)	—	—	—	8,465	1,100
	決算額(千円)	—	—	—	8,465	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 コロナ禍や外出困難な場面にも対応できるため、全国的に導入の進んでいるサービスである。多様な図書館利用者へ対応するサービスとして実施する。
	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 7月導入に向け、システム導入し、ホームページ・広報誌等による普及啓発を行った。町内小中学校へ制度周知チラシや新着資料チラシを全数配付した。操作マニュアルを作成し、図書館入口で常設展示を行った。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 町内小中学生全員がタブレット端末を貸与されている。インターネットを通じた電子図書館の利用促進は現状に即しており、タブレット端末の活用方法としても有効である。図書館利用の多い60歳以上の世代にも外出困難な際の代替サービスとして浸透してきている。
	判定	□A：十分できている ■B：できている □C：□D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
総合評価	判定理由、課題今後の対応等	近隣市町に比べ、蔵書数は少ないものの、児童書から一般書までバランス良く揃えたことで図書館利用を基本として、電子図書館の利用も好調である。今後は期間限定(1年・2年・5年)の電子書籍の満了時期の蔵書数減少を毎年の蔵書購入で復元しつつ、サービスの普及啓発に努めたい。
外部評価		読み上げ機能や文字拡大機能等、紙媒体にない特性を活かし、高齢者や障がい者、外出困難な方等に対応し、多様なニーズに応えられる事業である。今後の蔵書数の増加に期待したい。

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-3 芸術・文化の向上		
重点事項	(2) 図書館運営の充実(図書館学校連携事業)		
目的	図書館司書が小学校に出向き、学校図書担当教諭や図書ボランティアとも連携を図りながら学校図書館が円滑に運営できるよう支援する。		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備(書架整理、掲示物作成) ・授業支援(資料収集、町立図書館の資料貸出) ・読書支援(読み聞かせ、図書の紹介) ・町立図書館の利用促進(町立図書館行事の紹介) 		
根拠法令等	図書館学校連携事業実施要項	担当課	文化の森課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	支援(訪問)回数(回)	74	120	63	120	
コスト	予算額(千円)	1,229	1,362	1,388	1,388	1,388
	決算額(千円)	1,031	1,108	1,194	1,194	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	B <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 学校図書館の書架整理、図書の修理等、外部からの支援が必要とされている。そのため町立図書館から司書を派遣し支援を行っている。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 学校図書館の運営支援のため、小学校の図書担当教諭等と調整を行い、各小学校のニーズに合わせて各種支援を行った。また、地域学校協働本部事業に携わるコーディネーターとも連携を進めた。令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策を継続実施しつつ、小学校への訪問も平年並みに戻った。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 町立図書館が持っている技術や知識について、学校図書館においても有効に活かしていきたい。担当司書2人が5校を訪問する体制が定着し、事業を安定して実施しやすくなった。
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A:十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B:できている <input type="checkbox"/> C:あまりできていない <input type="checkbox"/> D:できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題今後の対応等	新型コロナウイルス感染症対策を継続実施しつつ、今後も学校図書担当教諭や図書ボランティアとも連携を図りながら、学校図書館が円滑に運営できるよう支援する。
外部評価	各小学校のニーズに合わせた各種支援が行われている。学校図書館の円滑な運営に町立図書館の司書の存在は大きい。引き続き支援の充実を期待したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-3 芸術・文化の向上		
重点事項	(3) 芸術・文化の推進（文化会館事業）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術、文化に理解と見識のある人材の発掘、登用に努める。 ・多様化、高度化する文化活動に的確に対応し、住民の芸術・文化活動への意欲の向上を図る。 		
具体的取組	<p>文化会館事業（自主事業 9事業）計 3,654人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年約 10事業程度自主事業を実施している。 ・伊沢拓司講演会（323人） 児童劇（559人） ファミリーパレエ（350人） 第30回コスモ吹奏楽祭（628人） コスモ夢コンサート（800人） コスモホールを独り占め（36人） バレンタインピアノコンサート（200人） スーツ結成 25周年記念コンサート（397人） コスモシンフォニックウィンズ第6回定期演奏会（361人） <p>の9事業を実施した。</p> <p>※（ ）内は、入場数又出演者数</p>		
根拠法令等		担当課	文化の森課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	入場数又出演者数(人)	5,596	1,192	2,422	3,654	
コスト	予算額(千円)	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000
	決算額(千円)	8,813	8,275	8,597	9,000	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1 必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
		<p>評価に対する説明等</p> <p>コロナ禍ではあったが、文化活動は、人生を豊かにする心の栄養として、必要性が高いこともあり、感染症対策を講じながら事業を実施した。</p>
2 効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
		<p>評価に対する説明等</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策を講じ、入場者数制限を設けず事業を行った。</p>
3 有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
		<p>評価に対する説明等</p> <p>コロナ禍のため、事業そのものを変更して実施する形で始まったコスモホールを独り占めという事業を引き続き実施した。国際的にも有名なスタインウェイピアノを演奏できるということと舞台を自らが使用できることもあり好評となっている。また、開館以来継続している地元演奏家による夢コンサートをはじめ、様々な自主事業を実施している。</p>
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら従来の自主事業に近づいた形で実施することができた。
外部評価		文化活動は、住民にとって、ゆとりと潤いの実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものである。課題を検証し、今後さらなる充実を図っていただきたい。

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-3 芸術・文化の向上		
重点事項	(4) 歴史文化活動の推進（稲美町史編さん事業）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「稲美町史」の発行から約40年が経過し、新たな町史の編さんに着手する。 ・総合的で体系化された町史を編さん・発行することにより、住民の郷土に対する愛着を醸成するとともに、町に関する貴重な歴史資料を網羅的に収集、整理、保存し、次の世代につないでいく。 		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の受付、整理、収集、管理業務 ・町史編さん委員会 地区別委員会 地元委員会等実施 		
根拠法令等	稲美町史編さん委員会設置要綱	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	利用者数 町内学校見学者	令和7年度「加古地区編」、令和8年度「母里地区編」、令和9年度「天満地区編」、令和11年度「通史編」、令和12年度「史料編」の刊行				
コスト	予算額(千円)	—	—	—	2,177	1,253
	決算額(千円)	—	—	—	1,248	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 住民にとって町の歴史を知る手がかりとなる貴重な資料・写真を町史として編さんして次代に歴史を伝えていくことが必要不可欠である。
2	効率性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 調査・研究については、専門家だけでなく地元の郷土研究家、地区委員にも協力していただき、稲美町特有の町史編さん業務を行っている。
3	有効性	B <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 地域の歴史や文化は、全ての住民にとって貴重な財産である。町史を発刊し、生きた教材として活用し、郷土に対する理解を深めることにより、次代を担う人材育成につながっている。
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A：十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題 今後の対応等	郷土資料の展示・収集・保存は、地域の歴史を知る上で重要であり、継続して保存し、後世に伝えることが重要である。「稲美町史」の発行から約40年が経過し、令和4年度より編集委員会を立ち上げ、新たな「稲美町史」の編さんに着手した。
外部評価	次世代に歴史を伝えていく事業であり、長い年月をかけて丁寧に編さんされることを高く評価したい。住民にも進捗状況が分かるよう周知等を工夫していただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-4 住民協働の推進		
重点事項	(1) 住民が主体となって参画・協働する仕組みづくりの推進（校区まちづくり事業）		
目的	各小学校区内におけるこころ豊かなまちづくり（生涯学習）に関わる事業を総合的・効果的に推進するため、関係団体の相互連携・協力を図り、住民による企画・運営並びに自己学習の進展につなげることを目的とする。		
具体的取組	校区まちづくり委員会活動 5校区まちづくり委員会は各校区30～50人の委員（公募・自治会・子ども会・幼稚園・小学校・PTA等）により構成され、事業の企画・運営・実施等を行う。		
根拠法令等	各校区まちづくりの会会則・稲美町補助金等交付規則	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	ウォーキング参加者数(人)	1,290	中止	891	1,218	1,284
コスト	予算額(千円)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	決算額(千円)	2,000	1,017	1,491	1,930	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 地域が疎遠になりつつある社会情勢の中、子どもから大人までふれあうことができるまちづくり事業は必要とされている。令和4年度もコロナ禍により全校区で、多くの事業が中止となったが、感染予防対策を取りながら事業を実施し、住民主体のまちづくりが推進できた。	
2	効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 自主運営を基本に事業が企画・運営されており、校区まちづくり委員会の中に公募委員も増えている。企業協賛を受けるなど、コスト削減にも取り組んでいる。	
3	有効性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 まちづくり委員が一丸となって、桜ウォーキングなど、校区ごとに特色ある事業を例年実施している。	
総合評価	判定	□A：十分できている ■B：できている □C：あまりできていない □D：できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	住民相互のふれあいの場づくりとなっている。5校区の連絡会を開催し、委員の研修や他校区の情報交換も行いながら、事業を展開していく。各校区に特色ある事業を継続していくためには、委員を増やし次世代につなげていくことが不可欠である。	
外部評価		地域とのつながりが希薄になりつつある現代において、校区まちづくり事業の必要性は年々高まっている。桜ウォーキング等の事業を地域の自主運営で開催できていることを評価したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-4 住民協働の推進		
重点事項	(2) 社会教育施設等の活用と推進（いなみ野水辺の里公園）		
目的	地域住民に対して「だれでも、いつでも、自然とふれあい」を通じて生きた自然の恵みと命の大切さ、豊かなこころを育む。		
具体的取組	《指定管理事業》いなみ野水辺の里公園管理運営 ・環境保全と親しみのある公園設備に重点をおいて管理する。 ・食育教育、自然を活用したイベントやセミナーを実施する。 ・地域各団体との連携・協働による管理を推進する。		
根拠法令等	稲美町立いなみ野水辺の里公園の設置及び管理に関する条例、同施行規則、稲美町いなみ野水辺の里公園指定管理者の仕様書	担当課	生涯学習課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	来園者数(人)	46,390	42,379	50,055	56,749	
コスト	予算額(千円)	12,770	12,940	13,109	13,265	13,432
	決算額(千円)	12,770	12,940	13,109	13,265	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 コロナ禍であったが、自然とのふれあい体験事業や各種企画展示、動植物の生態系に関する調査研究等を行いつつ、あわせて学校の課外授業も受託するなど、感染予防対策を取りながら計画していたすべての事業を行った。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 施設の老朽化により、年々、修繕箇所が増加している。修繕箇所については、リスク分担表にて、適切な対応を行い、コスト削減を行った。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 「ホテルが自然に生息し、毎年舞う」環境を目指し、ホテルの飛翔に関する環境づくりに取り組んでいる。
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大
	判定理由、課題今後の対応等	今後も施設の有効利用を図りながら、子育て交流施設「いなみっこ広場」との協働事業を含めて、地域住民の満足度が高まるよう事業を進めていく。
外部評価	コロナ禍であったにも関わらず、来園者が2年連続で5万人を超えた。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、イベントやセミナーを実施し事業担当者に敬意を表したい。	

重点目標	IV-5 地域における住民の人権学習の充実		
重点事項	(1) 各自治会の課題に応じた学習会の実施（ふれあい学習会の充実）		
目的	人権学習を通して、住民の人権感覚を育むことにより、差別解消への態度の形成を図り、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚の涵養に努め、誰もが住みよいまちづくりをめざす。		
具体的取組	ふれあい学習会 ・年1回、各自治会で実施する。 ・各自治会の課題に沿って実施する。 ・アドバイザー2名を各自治会に派遣し、助言等を行い、学習会の充実を図る。		
根拠法令等	稲美町ふれあい学習会実施要項	担当課	人権教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	参加者数(人)	1,228	20	322	672	
	実施自治会数	61/65	1/65	17/65	37/65	
コスト	予算額(千円)	90	90	90	90	90
	決算額(千円)	63	3	30	48	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 町民がさまざまな人権課題に対する理解と認識を高め、問題解決を図ることで共に生きる社会を構築していくために、年1回、推進員・アドバイザー等の協力により実施している。令和4年度は主に、「ケアラー」をテーマとした兵庫県人権啓発協会作成のDVDを使用し、ヤングケアラーやその家族が抱える問題を認識し、だれもが互いの人権を尊重する中で、それぞれの自己実現の達成へ向け歩んでいける社会の実現をめざすための協議をすべく準備を進めてきた。コロナ禍ではあったが、時期をずらすなどの工夫を施して37の自治会で開催することができた。令和5年度も引き続き、全自治会の開催を目指すこととした。
2	効率性	B ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 毎年、各自治会の生涯学習推進員から計画書の提出を受けてアドバイザーと調整し、7月から12月にかけて学習会を実施している。令和4年度もコロナ禍での開催を不安視する声もあったが、どの自治会においても学習会の意義を理解し、実施に向けて計画書を作成するなど協力的な姿勢がうかがえた。
3	有効性	B ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 コロナ禍での開催であったが有意義な学習会となったとの意見が多かった。各自治会の課題に沿った学習会となるよう、年1回の実施ではあるが、継続して取り組んでいくことで、住民に人権感覚をチェックしてもらいよい機会となっている。ただ、コロナ禍で中止を余儀なくされた自治会もあり、全体の64%の開催となっている。
総合評価	判定	<input type="checkbox"/> A：十分できている <input checked="" type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題今後の対応等	生涯学習推進員や自治会長が中心となり、各自治会の人権課題に沿った内容での計画・運営が継続できている。令和5年度は、学習会の意義を伝え、すべての自治会での開催を目指す。また、学習内容の工夫や参加者の増加に向けた取組等、住民が主体となって取り組めるように推進する。
外部評価	コロナ禍の中でも学習会を推進した各自治会及び生涯学習推進員に感謝したい。引き続きアドバイザー・生涯学習推進員を的確にコーディネートすることで、学習会を開催する自治会が増加することを期待したい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-5 地域における住民の人権学習の充実		
重点事項	(2) 住民が関心のある人権課題の講座の実施（ほっとホットセミナー）		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民等を対象に、身近な生活や地域の人権にかかわる様々な課題をテーマにしたセミナーを開催する。 ・正しい知識や情報を提供し、お互いの人権を認めあう人づくり・まちづくりの推進を図る。 		
具体的取組	人権啓発講座「ほっとホットセミナー」の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・年5～6回開催。さまざまな人権課題をテーマとして、専門的な講師を招いて、課題の解決をめざす。 		
根拠法令等	稲美町人権啓発講座「ほっとホットセミナー」実施要項	担当課	人権教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	参加者数(人)	196	124	115	160	
	満足度(%)	81.4	92.1	87.8	94.4	
コスト	予算額(千円)	130	130	130	130	130
	決算額(千円)	125	90	100	95	

評価項目	評価	評価の主な観点等
1	必要性	A <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 同和問題をはじめとし、性的マイノリティ、ヤングケアラー、ヘイト問題等の人権課題について専門の講師を招聘し、地域住民が学習できる機会を提供している。参加者からは、「当事者の方から直接お話を聞くことができ、良かったです。個人での体験となるので、定期的にいろんな方からのお話を伺いたいです。」「具体的な事象に基づいてのお話で私自身も知らないことの多さに改めて気づきました。これからこのセミナーを継続してください。」等の感想があり、今後も、広く地域住民に周知し、人権啓発に努めることとしている。
2	効率性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 人権講演会等の企画・運営については、県内各市町の人権啓発担当者等と情報交換を行い、稲美町の人権課題に即した内容及び予算内での講師依頼をしている。現在問題になっている人権課題に直接関わっている方々から生の声を聴くことで、実生活に即した取組及び啓発となるよう努めている。
3	有効性	A <ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 毎年、町の実態に応じた人権課題について5回講演を企画しているが、令和4年度は、コロナ禍ではあったが、新型コロナウイルス感染症対策を施し、全5回実施することができた。参加人数の制限・把握のため、住民等へ広く周知することはできなかったが、事業の概要や講演内容を啓発誌に掲載し全戸配布することで、住民の人権意識を高めることに寄与した。
総合評価	判定	<input checked="" type="checkbox"/> A：十分できている <input type="checkbox"/> B：できている <input type="checkbox"/> C：あまりできていない <input type="checkbox"/> D：できていない
	今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 拡大
	判定理由、課題今後の対応等	今後も、社会の現状に即した人権課題について学習する機会を提供することは大切である。令和4年度は全5回開催できたので、参加者総数は増加している。また、高い満足度を維持できている。また、今後のセミナー内容についての希望も寄せられており、効果的な施策となったことが読み取れる。今後は、コロナ禍前の参加人数に戻せるよう、取り上げるテーマや開催方法を工夫し、幅広い年齢層が参加できるようにしたい。
外部評価	参加者の満足度が94.4%となっており、テーマの選択や開催方法の工夫などの成果として高く評価できる。参加人数の目標設定を行い、さらなる充実を図っていただきたい。	

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	IV-5 地域における住民の人権学習の充実		
重点事項	(4) 男女共同参画社会の推進		
目的	第3次稲美町男女共同参画プランの進捗状況等を把握し、必要に応じて見直しを図る。		
具体的取組	第3次稲美町男女共同参画プランの推進 ・推進のための懇話会と推進委員会を開催する。 ・周知のための講演会や研修会を開催する。		
根拠法令等	男女共同参画社会基本法 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律	担当課	人権教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	プラン取組のA評価の割合(%)	18.8	18.8	21.2	64.0	
	(稲美町各課の取組)	16/85	16/85	18/85	57/89	
コスト	予算額(千円)	74	64	4,207	64	64
	決算額(千円)	44	29	3,351	26	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性	A	・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 令和3年度に第2次プランを現在の社会情勢に応じて改定し、新たに新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を含め、第3次プランを策定した。令和4年度は、役場各課において第3次プランの基本的な考え方を共有し、推進した。	
2	効率性	A	・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 関係各課の課長で組織された推進委員会で、令和4年度は第2次プラン推進の実績を把握し、第3次プランについて各課における推進体制を構築した。また、外部委員で構成された懇話会では、第2次プランに基づく施策の検討や実施状況の評価等を行い、第3次プランの着実な遂行を目指すこととした。	
3	有効性	B	・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等 第3次プランの概要版を研修会や講座等で配布、また公共施設に配架し周知に努めた。男女共同参画週間に合わせ、ホームページに掲載した。さらに男女共同参画セミナーを開催し、稲美町の現状について、住民へ研修を行った。	
総合評価	判定	■A:十分できている □B:できている □C:あまりできていない □D:できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	第3次プラン(計画期間:令和4年度~令和13年度)のスタートの1年となった。多様な性の対応やSDGsの達成に向けた取組、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響など社会情勢が大きく変わる中、課題に対して工夫しながら推進した。また、男女共同参画週間での施策やセミナーの開催を実施し、住民への周知を深めていった。	
外部評価	各課の取組が分かりにくいので、別添資料等で詳細を示すなど工夫していただきたい。プラン取組のA評価について、評価の仕方の見直しも含めて、改善に取り組まれたことは評価したい。		

令和4年度 稲美町教育委員会評価調書

重点目標	V-1 教育振興基本計画に基づく稲美町の教育の充実		
重点事項	(1) 教育振興基本計画の見直しと点検評価		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町教育振興基本計画に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、毎年点検評価を行う。 ・近年起こってきているさまざまな新しい課題に効果的に対応できるよう、必要に応じて見直しを行う。 		
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・稲美町教育振興基本計画点検評価委員会を組織する。 ・教育委員会の権限に属する事務の管理執行状況について、年間3回の委員会を開催し点検評価する。 ・「稲美町教育委員会点検評価報告書」を作成し、議会に提出するとともに町のホームページで公表する。 		
根拠法令等	教育基本法 稲美町教育振興基本計画点検評価委員会設置要綱	担当課	人権教育課

		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
評価のめやす(基準)	評価事業数	38	38	35	35	
	評価Aの割合(%)	52.6	55.3	45.7	54.3	
コスト	予算額(千円)	72	72	72	72	72
	決算額(千円)	63	42	54	51	

評価項目		評価	評価の主な観点等
1	必要性		<ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズや社会経済情勢の現状に合致しているか。 ・事務事業を本町教育委員会が実施すべきか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
2	効率性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事務は効率的に実施されているか。 ・コスト削減の工夫がなされているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
	各委員の任期を2年間としているため、継続した観点で点検評価を行うことができた。また、町内幼稚園、小・中学校それぞれの校園長を評価委員に委嘱し、取組の効率性について意見を求めながら点検評価を行い、令和5年度の取組に生かせるよう配慮した。		
3	有効性	A	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の目的に照らして効果的な手法か。 ・施策や運営方法等の目的の実現に寄与しているか。
	A 期待通り B 概ね期待通り C 課題あり D 事業見直し等	評価に対する説明等	
	社会教育委員や公募委員という外部からの客観的な視点で意見を受けることで、実態に即した点検評価ができた。各校園での取組については、小・中学校及び幼稚園の長との意見交換を行った。委員会にいただいた外部委員からの意見等により、令和5年度へ向けての課題を把握し、改善できるように取り組めた。		
総合評価	判定	■A：十分できている □B：できている □C：あまりできていない □D：できていない	
	今後の方向性	□廃止・終了 □休止 ■継続 □拡大	
	判定理由、課題今後の対応等	第3次稲美町教育振興基本計画(令和2年3月策定)から主なもの35事業について点検評価を行った。35事業の選択については、各課で総合的に判断している。点検評価委員会からの外部評価を参考に、新たな課題とその対応、また教育の振興に向けた施策など、質の高い教育をめざし各事業に取り組んでいく。	
外部評価		点検評価委員会においては、各委員からの質問や意見に対して、次年度の取組に反映されていることは高く評価できる。協議の結果について、様々な機会において周知を図っていただきたい。	